

学びに火をつける

追究する

まとめる

広げる

学習活動①
将来の夢を見つめる。自分の夢を実現するために何をどのようにするのか考えさせる。具体例を書く。

T: 皆さんの将来の夢は何でしょう。そのために何をすればよいか知っていますか。
C: サッカーを習っているのでサッカー選手になりたいです。上手な子は、セレクションを受けてチームに入っています。
C: 将来の夢は農業です。
C: まだ、はっきり決まっていません。

<ポイント>
自分が描いている将来の夢に対して、具体性の薄さに気づかせる。

学習活動②
職業のあり方の変化について知らせる。アメリカの論文を読み、今後残るであろう職業、失われる職業について知る。

T: この論文を読んで、自分の将来の夢を実現させるために大事なことは何ですか。
C: 良い大学を出たから、良い職業に付けるとは限らないようです。
C: 近未来、どんな職業が新たに生まれるのかわかりません。
C: 自分で新しい職業を切り開かなければならないのかもしれない。

<ポイント>
従来の職業に対する意識の変化に気づかせ、大人になった自分をイメージさせる。活動を「小学校卒業研究」と位置づけ、課題に対する意識を高める。
「未来にはばたけ！ 小学校卒業研究」

学習活動③④
「夢を形に！ ジュニアセミナー」を行う。体育館でブースを作り、児童がグループ毎に回って回る。
保護者の方や地域の方、教員の知り合いを招いて、それぞれの職業について説明してもらう。
(職業の具体的な内容、職業に就くための資格や学歴、職業に就いてから気づいたこと、職業に対する誇りや自負、現在も努力していること等)

T: グループに分かれて、ブースごとに職業の説明を聞きます。一定の時間になったら合図をするので、順に回ります。
T: メモを取りながら、話を聞きます。質問してもいいですよ。
C: このような職業があることを知りませんでした。
C: 職業に就くために、たくさんの選択があることが分かりました。
C: 個人的なやりがいがあるって、今も努力し続けていることに驚きました。

- 予定している職業
- ・ミュージシャン・ピアノ講師
 - ・オリジナルTシャツ製造販売
 - ・エステティシャン
 - ・歯科医・キャビンアテンダント
 - ・がん患者支援・治験支援
 - ・大学院生
 - ・バレエ講師
 - ・神職(巫女)
 - ・ネイリスト
 - ・弁護士
 - ・栄養士
 - ・イラストレーター
 - ・薬剤師
 - ・カウンセラー

<ポイント>
具体的な内容について、自分の将来の夢と照らし合わせながら説明を聞く。

学習活動⑤
「夢を形に！ ジュニアセミナー」で聞いた説明を振り返り、自分の夢に繋がる研究のテーマを決める。

T: 自分の将来の夢について研究テーマを決めましょう。
C: まだ、不確かだった将来の夢を具体的に決めます。
C: 「サッカー選手」という夢は自分の希望であって、職業として成り立つかどうかははっきりしないことに気づきました。
C: 「医者」に成りたいと思っていましたが、内科、外科、眼科等によって選択する大学が異なることに気が付いたので、具体的な計画を考えてみたいと思いました。

<ポイント>
漠然とした夢ではなく、職業とはお金を稼ぐことであり、生活を維持していくものということを理解させ、具体的に考えさせる。

学習活動⑥
各自がどのように取材したり、調べたりするのか計画を立てる。

T: どのように取材したり、調べたりするのか計画を立てましょう。
C: 専門職なので、どのような資格が必要なのか調べます。
C: 「保育士」になるには、専門学校、短大、大学などの選択があるので、内容について具体的に調べ違いを明らかにしたいです。
C: もっと、詳しい内容を知りたいので、インターネットで調べてみます。
C: 行きたいと思っている大学に入学できるようにするために、必要な学力について調べます。

<ポイント>
次時から、調べ活動や取材ができるように具体的な学習計画を立てさせる。

学習活動⑦、⑧
調べたことをまとめて、発表の準備をする。

T: 八名川まつりに向けて、「未来にはばたけ！ 小学校卒業研究」を各自がまとめましょう。
C: 発表の準備をします。
C: 発表の仕方を工夫します。

<ポイント>
今までの学習の成果が、生かせるような発表の仕方を見つけさせる。

伝える

学習活動⑨
八名川まつりで発表し、友達や他の学年に伝える。

T: 八名川まつりで発表しましょう
C: 自分の夢を実現するために具体的な計画を作成し、自分の未来が想定できました。
C: 新しい職業ではないけれど、昔から続いている商業を守っていきたいと思いました。
C: 働く全ての人に敬意をもつことができました。
C: 夢を実現させるために努力していききたいです。

<ポイント>
今までの6年生の発表や深川江戸資料館での発表経験を思い出させ、自分たちの「卒業研究」を発表させる。また、他の人たちの発表を聞いて、他の職業を新しい視点で見られるようにする。